

12・4	12・9	12・6	12・4
12・11	12・10	12・8	12・11
詩絵手箱	銀製花盛器	銀製花瓶	日本銀行
1合	2個	3対	貞弘重進
代表 植木 万里	校歌碑建設会	馬政局総務課	通信省航空局総務課
製作 松沼 源吉	図案 金沢 庸治	石田英一	図案 清水 南山 鍛金 石田 英一
			六角紫水

⑥ 新規矩男の再起用

フランス語および西洋文学授業講師として昭和七年三月に起用された新規矩男(368頁参照)は同九年十二月十五日に学術研究のためアメリカ合衆国へ出発し、メトロポリタン美術館東洋部部長を同十一年十二月までつとめた。本校講師を同十年十二月に一旦解嘱されたが、同十二年四月に帰国したので、改めてフランス語授業を嘱託(文庫課兼務)された。そのため、講師富永惣一はフランス語担当から西洋彫刻史担当(無報酬)へと転じた。

⑦ 藤島武二の海外出張

藤島武二は外務省文化事業部の依頼、給費を受けて昭和十二年四月二十三日から約二十日間、満州国へ出張した。出張上申案には「豫テ満洲國ニ於ケル古美術調査ヲナサシメ度希望ノ處今般同國文教部主催ノ下ニ満洲國皇帝陛下ガ大詔ヲ喚發セラレ日滿ノ道義的共同点ヲ高調シ給ヒシヲ記念スルタメ訪日宣詔記念美術展覽會ヲ新京

ニ開催スルコト、ナリタル趣ニテ其ノ審査ヲ同教授ニ依頼シ来タリタルニ付右審査ヲ兼ネテ以テ上述ノ調査ヲナサシメントス」(昭和十二年職員関係書類<sup>並</sup>)と記されている。このとき満州国が招聘したのは藤島と安井曾太郎、松林桂月の三名であった。

⑧ 津田信夫の海外出張

津田信夫は第十六回朝鮮美術展覽会の審査を依頼されたのを機に、昭和十二年五月二日から約三十七日間、朝鮮、満州、中華民国を旅行し、美術および美術工芸品の調査を行なった。

⑨ 田辺至の海外出張

田辺至は第十六回朝鮮美術展覽会の審査を依頼されたため、昭和十二年五月四日から十六日間、朝鮮京城へ出張した。

⑩ 和田三造の海外出張

和田三造は昭和十二年パリで開催の万国博覧会における工芸品の研究と欧米(イタリア、フランス、イギリス、アメリカ)各国主要都市における工芸界一般の趨勢を視察することを目的に同年六月中旬から十月にかけて欧米へ出張した。

⑪ 田辺孝次の海外出張

田辺孝次も和田三造と同様にパリ万国博覧会開催に際して欧州へ出張した。出張上申案には、

出張ノ目的 本年五月ヨリ九月ニ至ル五ヶ月間佛國巴里ニ於テ開  
催ノ巴里萬國博覽會ニハ日本館設置セラレ本邦代表的美術工藝  
品ヲ陳列スルコト、ナリタルガ之ガ陳列方法ハ從來トハ全ク異  
リタル配置ヲ必要トスルヲ以テ之ガ説明監督ノ為メニハ人ヲ派  
遣スルノ要アリ 偶々萬國博覽會協會ヨリ人選方本校ニ依頼シ  
来リタル為田邊教授ヲ派遣シ右事務ヲ處理セシメテ以テ七月  
三十日ヨリ八月五日迄巴里ニ於テ開催ノ第八回國際美術教育會  
議〔第八回素描及び応用美術國際會議〕ニ出席セシムルニアリ  
出張期間 六月下旬ヨリ九月末日ニ至ル三ヶ月半  
旅費ノ支途 萬國博覽會協會ヨリ支出ノ見込

〔昭和十職員関係書類類  
二年〕

とあり、和田と違つて具体的用務を帯びていたことが判る。なお、  
田邊は追つて朝鮮総督府からも外国事情調査を囑託（無給）され  
た。同年十月十四日に帰国している。

## ⑫ 大峽秀栄の起用

昭和十二年九月二十四日、大峽秀栄を講師（修身授業担当）を囑  
託した。大峽は明治三十四年山形県に生まれ、米沢中学興讓館、第  
二高等学校を経て同四十年東京帝国大学哲学科を卒業。土浦中学  
校、宮崎中学校、新潟医学専門学校に勤務し、大正十年から同十二  
年まで倫理学、教育学研究のためイギリス、ドイツ、アメリカへ国  
費留学した。

履歷書には

自大正十年十月  
至同十二年六月

二十ヶ月間於獨逸國ハイデルベルヒ大學リツケル  
ト。〔ヴオッベルミン〕  
ヴオッバーミン、ヤスパース、マイヤー、ホフ

マン諸教授ニ就テ哲學、宗教哲學、心理學、倫理  
學、教育學研究

自大正十年九月  
至同十二年十月

英獨佛米五ヶ國ヲ旅行シ教育事情ヲ視察研究

と記されている。新潟医專退官後は明治専門学校、大正大学、大東  
文化学院、成蹊高等学校等に勤務し、昭和十一年には文部省から臨  
時教科書用図書調査を、翌十二年には同省思想局から日本文化講義  
講師を囑託され、また、東京高等農林学校講師を囑託されている。

## ⑬ 日中戦争開始とその影響

昭和十二年七月七日、蘆溝橋における日中兩軍の衝突を契機に日  
中戦争が開始され、本校も例に漏れず戦時体制の影響を強く受ける  
ようになった。まず、戦争勃発により、昭和十二年中に職員では齋  
藤幸晴、大江雄五、鳩ヶ谷敏治、関野克、清水平吉らが召集を受  
け、生徒では日本画科一名、油画科四名、彫刻科木彫部一名、研究  
科一名が応召、それ以前から応召中の者四名を含めて十一名が休学  
した。翌十三年に応召による休学者はその倍以上となり、その後も  
新たに召集された者、召集解除により復学した者等もごももの状態  
が続き、その間に戦死者や負傷者も出始めて、緊迫した空気に包ま  
れて行った。

学校当局は応召による休学者に対してはその成績に応じて特別進  
級、特別卒業などの措置をとり、職員の親睦団体である厚誼会から